

## 第18回岐阜県小学生

### 作文コンクール

鵜飼佐弥子さん(和知小5年)

## 特選に選ばれました!

鵜飼さんは、昨年7月に亡くなったおじいちゃんへの感謝の気持ちを、作文につづりました。いつも一緒にいたおじいちゃんから、愛情をいっぱいを受けて育った鵜飼さんの、感謝の気持ちがあふれています。受賞を受け、「おじいちゃんに伝わるいいなと思うって書いたけれど、新聞に載せてもらえたので、たくさんの人に読んでもらえて、声をかけてもらいました。とてもうれしいです」と喜びを語りました。

報告を受けた金子町長から「すばらしい作文に、とても感動しました。これからも優しい気持ちで、周りの人を大切にして、頑張ってくださいね」と声をかけられると、鵜飼さんは嬉しそうに「はい」と返事をしました。とてもすてきな作文です。全文をご紹介します。文をご紹介します。



## おじいちゃん

八百津町立和知小学校5年

鵜飼佐弥子

おじいちゃんは、明るい。いつもだれかとしゃべっている。だれとでも、すぐ友達になれる。

おじいちゃんは、おもしろい。私が赤ちゃんのとき、「きやっぺ」とよんでいたらしい。よくよつだんを言っ、みんなを笑わせた。

おじいちゃんは、食いしんぼう。おばあちゃんがいなくて、こっそりかきパンを食べていた。「きやっこも食べるか?」と言っ、パンを分けてくれた。夕ご飯の前なのに、二人でこっそりよく食べた。

おじいちゃんは、やさしい。私がおやつをあげると、「ばあさんの分、とついたらないかん。」と言いなから、なんでも半分こにしていた。そして、「フッフ」といって。「私にたのんだ。おじいちゃんの部屋に遊びに行くと、「食へやあま。」と言っ、こぶあめや、くきわかめをくれた。

おじいちゃんは、たまにおこる。やったらだめだと言われたことを、「一回目やるよ。」とさっきだめと言っただけしよ。」と言っ、私の手をやさしくちよつただけつねる。いたいのにおじいちゃん、おばあちゃん

けんかする。けんかときは、聞かないほうがいいかなと思っ、一人でヨーヨーをしたり、ご飯をもくもくと食べたりに見ないふりをした。「ねえ?きやちゃん。」おばあちゃんかそつ声をかけると、きまっけんかはおしまいになる。けんかのときは、「めあ早くおばあちゃん、声かけてくれんかなあ。」と思っ、いた。

おじいちゃんは、物知りだ。「こは、こつするといよ。」あぶないから、こは気を付けてね。いつも、何でも教えてくれた。「それはあ...」私が質問すると、そつ言いながら、子どもにも分かりやすく、くわしくいねいにどんなことにも答えてくれた。おじいちゃんみだいな物知りになりたいなあと思いなから、話を聞いていた。

おじいちゃんは、いつもあつえんしてくれる。「きやちゃん、やっつみやあ。」と言っ、何でもやらせてくれた。おじいちゃんの家テレビを見るとき、初めてヘッドホンを使わせてくれた。何でもチャレンジさせてくれて、うれしかった。

おじいちゃんは、強い。病気になるても、一人で落ち葉を拾っていた。小石も、拾っていた。草も、とつていた。何も言っ、いなかつたけど、きつとみんなのために働きたいと思っ、そつしていたんだと思っ。上手に歩けなくなっ、よく転んでけがをした。めがね

がわれたり、手や顔を切っ、めつてもらったこともある。「大じようぶ。」と声をかけると、笑いながら、「いたいけど、大じようぶやよ。おじいさんは。」と、やさしい声で返してくれた。どんなでできないことがふえていっ、つらかつたり苦しかったりしても、せつたいに私には言わなかつた。だから私も言わないうつした。おじいちゃんを心配な気持ちにさせるようなことば。

おじいちゃんは、孫思いだ。病院のベッドでねているときも、「きやこが家に帰っ、くるよ。はよ帰らやあ。」とおばあちゃんに言っ、いたそつだ。「きやこの手は、大じようぶか?」と、ベッドの上で私のつき指のことをずつと心配してくれて、いたそつだ。でも、おじいちゃんがいなくなっ、ちやつてから、そのことを知った。もつと、早く知っ、おきたかつたなあ。最後に会いに行っ、たとき、おじいちゃんはいじようだんを言っ、いた。だから、まだじようだんを聞けると思っ、いた。声を聞いたり、あつ手したりは、もつとできないけれど、明るく、おもしろく、食いしんぼうで、ちよきくも、たまにおこりしんぼうで、おばあちゃんかけんかをして、物知りで、いつもあつえんしてくれて、強くて、孫思いなおじいちゃん。会いたいよ。もつ一回、会いたいよ。おじいちゃんのこと、忘れないうつ。たくんたくんめがねがうつ。